

黒毛和種早期若齢肥育に有効な哺乳強化技術

近年、全国的な子牛市場価格の高騰による肥育素牛導入費の増加、および輸入飼料価格の高止まり等により肥育農家の経営は厳しい状況が続いています。そこで、秋田県畜産試験場では、肥育農家における牛舎の回転率の向上や生産費の削減を実現するため、肥育期間の短縮に有効な肥育素牛（子牛）の発育向上技術を開発しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 出生後から3ヶ月齢の間、母牛からの自然哺乳に加え、表1の哺乳プログラムに従って代用乳を給与することで、哺乳量を強化した区(哺乳強化区)および自然哺乳のみで育成した区(自然哺乳区)を設け、各区6頭ずつ供試し、出生後から8ヶ月齢の体重の推移を調査しました。
2. その後、8ヶ月齢から全頭について肥育を実施し、慣行肥育より約6ヶ月短い概ね24ヶ月齢で出荷し、産肉性および哺乳強化が収益性に与える効果などを調査しました。
3. 出生後から8ヶ月齢の哺育・育成期において、哺乳強化区は自然哺乳区と比較して発育が良い傾向にありました。
4. 哺乳強化区は自然哺乳区と比較して肥育出荷後の枝肉重量が大きい傾向にあり、哺育期の代用乳の購入費を加味しても、哺乳強化を実施することで肥育出荷時の収益性が向上する傾向が示されました。



図1 人工哺乳による哺乳強化

表1 哺乳強化プログラム

週齢	朝		夕	
	代用乳 (g)	水(L)	代用乳 (g)	水(L)
1	300	1.5	300	1.5
2	400	2.0	400	2.0
3	500	2.5	500	2.5
4	500	2.5	500	2.5
5	500	2.5	500	2.5
6	500	2.5	500	2.5
7	500	2.5	500	2.5
8	500	2.5	500	2.5
9	500	2.5	500	2.5
10	500	2.5	500	2.5
11	400	2.0	400	2.0
12	300	1.5	300	1.5

☆活用面での留意点

1. 本試験では8ヶ月齢から肥育を開始しましたが、20ヶ月齢前後において血中ビタミンA濃度が低値となる個体が見られたことから、ビタミンA欠乏症にならないよう注意して下さい。
2. 詳しくは秋田県畜産試験場 飼料・家畜研究部 肉牛担当 佐々木航弥 (TEL 0187-72-2511) に問い合わせ下さい。

(日本政策金融公庫農林水産事業本部 テクニカルアドバイザー 加茂幹男)